

発表資料	
平成27年3月27日	
担当課(担当者)	秘書課広報室
電話(外線)	0857-20-3129
(内線)	2332

市政運営1年間を振り返って

1 皆さんの意見を取り入れながら、市庁舎整備に取り組んでいます

庁舎整備局

●平成26年12月26日 本庁舎の位置を「旧市立病院跡地」に定める条例可決

市役所本庁舎は、市民サービスはもとより、防災、まちづくりの拠点です。
平成30年4月の中核市移行もふまえ、山陰東部圏域の発展のために必要となる機能や役割なども考えなければなりません。



【今後の展開】 「庁舎は市民のものである」という原点に立ち、みなさんからご意見をいただきながら取り組みを進めていきます。

2 雇用が好転してきました

企業・立地支援課
経済・雇用戦略課

相次ぐ企業進出

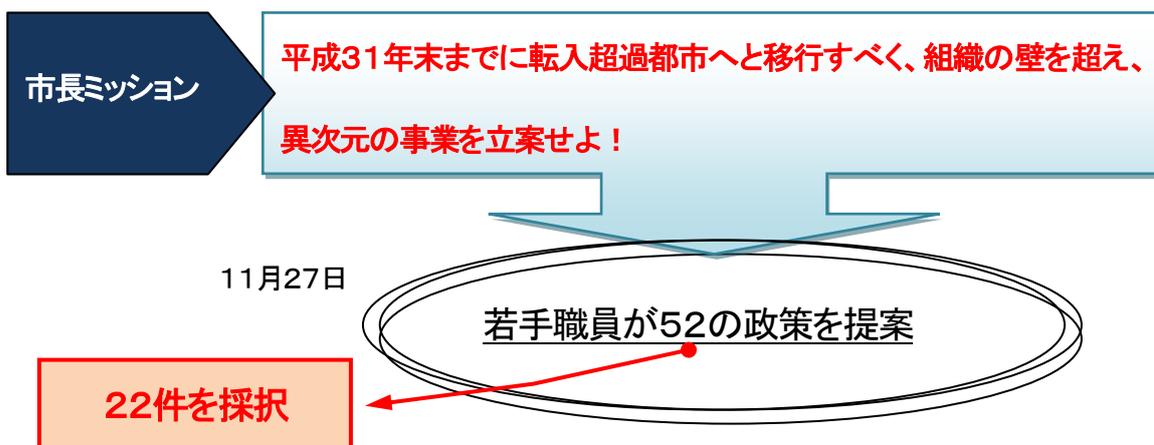
【平成26年度誘致企業】・・・4件

- パイオニア精工(株) 10月操業開始。現在正社員中心に23人程度雇用。
- (株)タケモトフーズ 10月操業開始。現在パートを中心に5人程度雇用。
- (株)八立製作所 1月から一部操業開始。従業員の研修など実施中。
- 共和薬品工業(株) 3月2日に調印。現在、工場の設計中。年内には建築開始、平成29年9月仮操業、平成30年4月に本操業開始の予定。

今後国策による普及促進により、ジェネリック医薬品のシェア拡大が考えられる。

※(株)源吉兆庵・・・4月から工場の建設開始、来年4月頃には操業開始の予定

(3) 若手職員が政策を競う



(4) 迅速にプレミアム商品券を発行

国の補正予算（地域住民生活等緊急支援交付金）に対応するため、1月及び2月補正予算を計上。

【プレミアム付き商品券】	販売額	10億円(額面総額 12億円)
	プレミアム部分	2億円(割増率 20%)
	販売数	100,000冊
	利用期間	3月20日～9月19日

(5) 地方創生は鳥取市から

国の総合戦略策定を受け、平成27年9月末を目途に、第10次総合計画の策定と並行して、鳥取市版の人口ビジョン及び総合戦略を策定し「地方創生は鳥取市から」という気概を持って取り組みを進めています。

【要望活動】 1月28日 国の「まち・ひと・しごと創生本部」に対し、提案・要望書を提出しました。

4 中核市移行へ向けた取り組みを強化・推進しています

中核市推進室

- 平成26年7月 市議会で中核市移行について検討を進める意向を表明
中核市移行推進本部を設置
知事に協力を要請
- 平成26年8月 縣市協議会を設置

移譲事務事業の調整 約2,500事業

- 財政的な影響を確認しながら移譲事務を確定
- 人材の確保に向け、職員の採用計画や研修計画を策定
- 保健所の整備についても、新庁舎建設と調整



平成30年4月 中核市移行へ

5 「すごい！鳥取市」で鳥取市を全国発信

広報室

【スペシャルサイトにより鳥取市の魅力を紹介】

鳥取市の100の魅力を紹介するスペシャルサイトでシティプロモーションを展開

- 平成26年7月4日 スペシャルサイトを立ち上げ
アクセス件数 約8万件
- 平成27年度の計画 ○100ネタの活用 ○更なる魅力（ネタ）の発掘
○本市の魅力を体感できるようなツール作りを推進
○地元や全国に向けた積極的な情報発信



鳥取市への 定住／誘客／誘引へ

【ととりのまんまオープン】

県内市町村では初めてとなるシティセールス拠点を開設。旬な食材や観光情報など様々な情報を提供

- 平成26年12月12日 中之島フェスティバルタワーにオープン
開設3ヶ月で6000人が利用
- 平成27年度の計画 ○大阪市内の飲食業者への積極的な情報発信
○関西圏へのシティセールス（イベント開催、アンケート、チラシ配布など）



鳥取市が 選ばれるまちへ

6 合併10年を迎え、まちづくりの方向性を示しました

新市域振興監

【鳥取市新市域振興ビジョンの策定】

昨年11月に、1市8町村の合併から満10年の大きな節目を迎えました。

この節目に、「鳥取市新市域振興ビジョン」を策定し、これから10年先の8町のめざす将来像を描き、まちづくりの方向性を示しました。

12月には、推進計画も作成し、より一層、地域の個性、特徴、可能性を活かした特色ある地域づくりを進め、全市一体的な発展につなげていきます。

- 平成26年7月 「新市域の夢のあるまちづくりフォーラム」を東部、西部、南部ブロックで開催
- 平成26年8月 「鳥取市新市域振興ビジョン」を策定
- 平成26年12月 「『鳥取市新市域振興ビジョン』推進計画」を策定

7 観光客の誘致にも力を入れました

鳥取砂丘・ジオパーク推進課

(1) 砂の美術館 まもなくドイツ編開催

【第7期展示】

- 入館者数 464,377人
- 経済波及効果 112億2千万円
- 宣伝効果 4億5千万円
- 主な取り組み 3Dプロジェクションマッピングを夏と冬の2回実施

【第8期展示】

- テーマ「砂で世界旅行・ドイツ編 ～中世の面影とおとぎの国を訪ねて～」
中世の面影が色濃く残る町並みや文化、メルヘン薫るおとぎの世界などを砂像で再現します。
- 開催期間 平成27年4月18日(土)～平成28年1月3日(日)
- 来場者目標 **50万人**
- 新たな取り組み 砂の美術館周辺にイルミネーション等による壮大な光の空間を創出。更なる話題性と魅力の向上を図ります。

(2) ジオパークを世界に発信

- 平成26年9月23日

世界ジオパーク再認定

エリア拡大

4年間の取り組みの成果

【アジア太平洋ジオパークネットワーク山陰海岸シンポジウム】

- 平成27年9月 鳥取環境大学をメイン会場として世界中のジオパーク関係者が集まる国際会議を開催



- 山陰海岸ジオパークを世界に向けて発信
- 国際観光のアピール

8 交通基盤の整備が進んでいます

都市企画課

(1) 駟馳山バイパスが開通

- 平成26年3月22日 山陰近畿自動車道「駟馳山バイパス」開通
 - ※山陰近畿自動車道としては鳥取市で初の開通
 - 冬季間などの安全な交通機能の確保
 - 鳥取市街地へのアクセスが向上
 - 山陰と近畿地方の交流進展に貢献
 - 定住自立圏等の因幡・但馬地域の一体感の醸成に貢献

【今後の展開】

鳥取西道路と山陰近畿自動車道とを結ぶミッシングリンクの解消が大きな課題。国・県・市が一体となり、この課題の早期解決に向けた取組を充実させたい。

(2) 山陰自動車道の整備促進

【鳥取西道路】

「吉岡温泉IC～青谷IC」・・・平成29年度の供用開始を目指し、国土交通省が整備中
「鳥取西IC～吉岡温泉IC」・・・開通年度が公表されていませんが、来年度の早い時期に開通時期が公表され、一体供用が実現することを期待しています。

【今後の展開】

山陰道建設促進期成同盟会等により地元選出国會議員、国土交通省等への要望を積極的に行い、国・県・市等関係機関連携のうえ整備進展を図っていく考えです。